

●ガバナー 築館 智大 ●会長 大橋 央雅 ●幹事 伊藤 斉 ●コミュニケーション委員長 米内 安芸

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinohehinamirc/

Facebook ページに「いいね！👍」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2020/

第 2277 回 例会 記録

《会員卓話例会》

2024 年 2 月 29 日 (木)

点鐘 12:30

レポート No. 1709

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



《会長要件》大橋会長



この数日挨拶と言え「雪降ったね」が多くまさに雪国、川端康成もうんざりするのではないかというくらいこの数日で降りましたけれども、三週間前には今年雪が降らなくて除雪屋さんかわいそうだな、もう少し降ってもいいのになと言っていた自分を殴ってやりたいくらいの積雪です。天気予報によると明日も雨とか雪の予報ですので皆さん十分お気を付けください。

去年の 3 月にうちの会社をおやめになった元従業員の方がお亡くなりになりました。ソファの張替えとかがとても上手くて、北東北、もしかしたら東北一上手くてきれいに収めてくれる方だったのですが、去年の 3 月におやめになって 1 年経たずにお亡くなりになりました。張り合いが無くなって家にずっとこもる状態になっていたようです。私はこうして皆さんとお話する機会がありますので、急激にボケてしまうという事はまずないとは思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

2 月は「平和構築と紛争予防」月間です、先日のニュースで、スウェーデンが NATO に加盟するという事で軍事的中立をスウェーデンが破るのは何百年以来で、小学校 2 年くらいにスイミーとかいうのを習いました。一つ一つは小さくても、それが集まれば大きなものにも対抗できるというものでした。とはいえロシア側からみるとバルト海を抑えられる事に成りますので 300 年前の大北方戦争のピョートル大帝の努力が水の泡になってしまったという事で、天国か地獄かはわかりませんが泣いているのではないかと思います。これによってプーチンが東に目を向け私たちにちょっかいを出すことが無いように、国としてうまくかじ取りをしてほしいと思います。

今日は会員卓話という事で久保田さんにお話ししております、久保田さんよろしくお話しします。

《幹事報告》伊藤幹事

・ハイライト米山、ロータリーの友通信をメールし

《出席報告》西尾委員長

正会員数 28 名。本日の出席は免除会員 5 名を含む 19 名。出席率は 73.1%です。



てあります。メールのない方にはプリントした物をレターボックスに入れてあります。

・西第 1 グループ IM の記録誌が届いています。

・例会変更のお知らせ、八戸 RC 3 月 13 日 (水) 場所変更、3 月 20 日 (水) 春分の日につき休会、メーカーシップ出来ません。八戸東 RC 3 月 1 日 (金) 例会変更、3 月 22 日 (金) 祝日の週に付き休会、メーカーシップ出来ません。八戸北 RC 3 月 19 日 (火) 祝日の週に付き休会、こちらでもメーカーシップ出来ません。いずれのクラブはメーカーシップ希望の方は事前にお知らせ下さいとのことです。

《ニコニコボックス》櫻田副委員長

大橋会長：雪、もういいです。

伊藤幹事：久保田さん今日はよろしくお話しします。

久保田会員：本日よろしくお話しします。



《会員卓話》久保田会員



大橋会長の命によりまして今日は卓話という事で指名されました。大変貴重なお時間を頂いて大変ありがたく思っています。前に会社の案内をするという機会がありましたが、その時は皆さん多数いらっしやってその枠には入れませんでしたけれど、せっかくの機会でありますので私の関与している企業のパンフレットを用意しました。パンフレットも配らないと中々無くなりませんから、ご覧になってください。

私は 1945 年生まれで、小学校は八戸小学校に入りました。小学校 2 年までは沼館の分校に居りました。沼館の分校は根城小学校の分校で、当時は 1 年生から 6 年生までいましたがクラスは 1 つで列ごとに学年がわかれて勉強と言うのはほとんどなかったです。校長は私の祖父で学校の隣が家、合掌造りの桁屋根の倉庫のようなところに住んでいたの、寝転ぶとポツ、ポツ、ポツと明かりが見えて、それが寂しくね、雨が降らなければいいなど、雨が降ると雨漏りのするようなところに住んでいました。なんでそういう事に成ったかという、私は母子家庭で、父親が死んで母親が八戸へ帰ってきたからです。当時凄く印象に残っている事があります。当時はお坊ちゃまだったので毛皮のコートを着ていました。昭和 20 何年か当時に小学校 2 年で毛皮のコートを着て帰って来ました。田舎の犬は毛皮だと分からずに吠えて襲い掛かってきたので、子どもながらにそのコートはもう着たくない、沼館の子たちが着ていた緋の袖なしとか綿入れが良いと思ったのですが、母親にしてみれば良いコートだからそれを着れ、着れという訳ですよ、それでも犬が怖くてですね、当時は今みたいに犬の管理はちゃんとされていなかったのゴロゴロいて、それが怖くて、怖くて、とても怖かったと言うのが子供のころの印象としてあります。

小学校 3 年になる時に学校が廃校になりまして、八戸小学校、今の公会堂のあるところ、そこには木造の八戸小学校がありました。火災で焼失しました。それまで家はラジオもなければ勿論テレビもない、テレビの有るのは八戸市役所から八戸駅への坂、当時は石畳でしたがそこを下りてくると左側にハシカクという食堂があって、そこで外からチラッと見たくらいというような時代でした。そういう情報もない、電話もない、電話は近所の家から呼び出して、東京とかに電話を掛ける時は申し込みと言って、東京〇〇番の〇〇番をお願いしますと言って申込、繋がるまで待っていて、繋がったら話をして、終わったら、いくらいくらですとお金を払うような時代でした。

小学校に行くときに、今日のように雪が降った時は、沼館から三八城公園の方を見ると何もありません、三八城公園が見えるくらいであそこの坂から「おおい」と叫べば聞こえるくらいの所でした。雪が降って風が吹くと道路が見えなくなってしまうようなところをゴムの長靴の中に藁を入れて、ズボツ、ズボツと行くと、周りが田んぼだから堰（用水路）にズボツと入ってしまうわけで、そうすると水が入ってしまう訳じゃないですか、そうしたら靴を脱いで水を出して進むのです。そうやって学校まで行ったら吹雪のために休みで、何のために来たかわからない、インターネットもなければ電話もない、とにかくまじめだから学校へは行かなければならない、そういう時代でした。雪も当時は子供から見れば胸くらいまで降ったように感じました。小さかったから 40 cm 降ってもそれくらいに感じたのかもしれない。そのような幼少期を経て、二中に入り、二中では写真を始め写真部とか放送部に入りました。

そこでもエピソードがあります、失敗談、私は失敗の連続の積み重ねなものですから、何があったか

というと当時天皇陛下のご成婚がありました。それを写真部の仲間がわざわざ東京まで写真を撮りに行ったのですよ、行ったはいいが行列で前には行けず、今はないデフレックスカメラというレンズが二つ付いた箱のカメラ、それを頭の上まで上げて撮ったので写真が撮れました。バシッと撮れていたの、写真部で現像して皆に売ろうという事に成ったのです。欲しい人が居たので売ったところ先生に見つけてしこたま怒られました。何が悪いのかはわからないまま怒られました。その後友達や相撲部を作った先生に誘われて相撲もやりました。設備も何もないから泥んこになると水道で体を洗って帰るような部でしたが、終わったあとに爽快感があるような、全身運動と言いますかそんな感じで、大会にも出ましたが 1 回戦で負けてしまいました。強いから出たわけではなく選手がいないから出たわけですから。

中学を終えて八高に入りました。八高に入る時私は無線が好きで電波高校、今の工大一高へ行きたかったのですが、母が母子家庭だったという事もあり、勉強しなければ駄目だ、あれをやらなければ駄目だとかいろいろ言って、とにかく無線をやってもいいから取り敢えず大学へ行ってからやれ、こう言われたこともあり、また、三日町でバスを待っている時に八高の生徒が足駄を履いて自転車で行って行く姿を見て通って行きました。他の学校の生徒は帽子のつばを短くしたりして、それを見た時に頑張らなくて八高へ行かなければと、それから頑張らなくて勉強してようやく入学出来ました。私たちの時は人が少ないときでしたから何とか八高に入りました。本当に頑張らなくて勉強して大学へも行かなければと思っていました。八高では文科系と工学系にクラスわけがあり、志望したわけではないですが工学系の方に分けられました。男ばかりのクラスへ志望して行ったわけではなく、男女共学のクラスもあり、八高祭の時にフォークダンスがあったのですが、女子の数が少ないので女子とは踊れません。踊りたくても相手がないので「なんだあいつら」と、本当は踊りたいのに踊れませんでした。私たちの頃は八高祭の準備は泊まり込みでしたが、その後宿泊は駄目になったようです。

八高でも文化部は放送部に入りました。中学から高校へ入った当時は先輩は子供と大人のように感じ、3 年生はひげを生やして、体も大きくバンカラでしたからおっかなくて、校門のところの土手に運動部の人たちが待っていて、こっちへ来いと無理やり部に入れられるわけ。私はそういうタイプではないのに、ノルマがあるからでしょうかラグビー部へ引張られました。ラグビーなんかやったこともないのに雨の日でも雪の日でも練習がありました。短パンですから寒いし、上はジャージ 1 枚だから私は下にシャツを着て上までボタンを掛けてごまかしていたら、「何で上までボタンを掛けているんだ、脱げ」と怒られたりしていました。足は早かったものだから、お前はフォワードだといわれてやっていたが、もともとやりたくないわけですから、何とか逃げる方法がないかなと担任の先生に言ったのですが相手にされず、いやいややっていました。

通学は自転車通学をしていました。中学の友達た

ちが工業高校へ行って自転車部には入り自転車を始めました。駅前に自転車のたまり場があって時々会っていたので、何をやっているか聞いたら自転車競走をやっているという事でした。私も興味を持ったので自分の自転車で彼らの練習場所に付いていたりしているうちに面白くなり、当時は今と違って一般に売っている実用車を改造した実用車部門と競争車の部門というのがあったので、自分の自転車の泥除けを外したりして時々一緒に練習していました。そうしたら工業の先生が「お前も新人戦があるから出てみないか」となり、やったことも出たこともないのですがみんなと一緒にならんと風呂敷に自転車を包んで電車にのり、青森の競輪場で走りました。自転車競技は駆け引きが大事で、狡さがなければ勝てません。ただまともに走る競技もありますが、団体で走るのは最後に1位になればいいので、何故か新人戦の時に優勝してしまいました。そうなったら自転車が良くなるじゃないですか、それでその事を話してラグビー部を抜け、八高に自転車部を作りました。

しかし1人ではどうにもなりません。学校として、チームとして出る場合は最低3人いなければなりません。皆さんも見たことがあるかと思いますが4人で走って交代交代で走り3人のタイムで競うので不利ですが3人で走ってもいいのです。何とかして3人見つけなければと同級生の二中から一緒に来て野球部に入っていた人がいて、野球部は練習が厳しく朝から練習、授業中は寝ていて、練習が終わって家に帰ったらボールの修理、そんなことやっていても試合には出られないんだから自転車をやろうとようやく引っ張り込んで、その後輩も引き込んでやり、八高で全国大会へも行きました。

県大会をクリアすれば東北大会のないときですぐ全国大会、選手層の薄い時代でしたから、全国大会へ行くと自転車振興のために、自転車振興会で自転車を貸与してくれます。ピカピカのレーサー車で今買えば20万とか30万とかするものを貸与してくれましたので、とにかく行けば自転車がもらえるからと頑張って行ってもらってきてやりました。

その後日大へ進学しましたが、何せ高校へ入ってあまり勉強もしなかったこともあり家も裕福でなかったものですから、工業の友人が日大にスカウトされ、お前も一緒に付いてこないかと誘われました。付いていけば合宿所で3,500円でご飯が食べられ学校へ行けるとなったものですから、それは良いと安直に入学しました。学部は芸術学部を希望しましたが、そんなところに行ったら全然練習が出来ないだろう、近くの学部だという事で経済学部になりました。朝5時から7時まで練習、7時に食事をして学校、帰ってきて練習、合宿では風呂当番、掃除当番、便所当番があり勿論水洗ではありませんでしたが、そんなことをやりながら日曜日には世田谷の合宿所から箱根の山に行きます。旧道の方でしたが、登って下りて帰ってくる訳ですよ、江の島の方を帰ってくると、当時みゆき族とかそういった人たちがいっぱいいた時代ですから、男の子はスポーツカーで、こっちから行くとパシフィック茅ヶ崎とか大学生とかがうようよいて賑やかでしたから、私たちは自転車ではこりまみれになりながら横目で良いなあと、そん

な感じで大学時代は練習、練習で、日大自転車学部みたいな感じでした。

そこで学んだことは、私はあまり強くありませんでしたが、練習、練習、練習、練習。練習もあまり好きではなくいやいやではありましたが付いていかなければと、それでも国体は3回出て、都道府県にも全日本にも出て優勝したこともあります。種目がいっぱいありますから、その中の短距離の種目で関東学生とかでも優勝して、競輪選手にならないかと誘われましたが、母親が頑として反対し、競輪選手だけはやらないでくれと言われました。競輪選手として立派にやっている方もいらっしゃいますし、なった方は金持ちになっています。私が八高の時に野球部から自転車部に引っ張った山内君という、知っている方もおられるかもしれませんが昔長崎屋の辺りに文房具屋があってその息子でしたが、彼は進学しないで自衛隊に入り、自衛隊から競輪選手になって、私が大学を終わって就職して、今の東芝情報システムというコンピューター会社ですけれども、そこで月給27,000円の時にセンチリー、天皇陛下の乗っている車センチリーでブアーと来ました。「試合が終わって羽田から今来た、飲みに行こう」と、お金持ちなわけですよ、駐車場代で15,000円かかってしまった、当時ですよ、駐車料だけでですよ、びっくりです。飲みに行こうといっても私もカッコウをつけて割り勘じゃないですか、しょうがないから近くのスナックへ行って水割り、その場でお金を払います。1杯1,000円、もっと行こうよと誘われて六本木、当時私は西麻布に住んでいましたから六本木迄行きました。そこで飲むのですが、当然次は彼がお金を払いますから、「お客様おつりでございます」「山内おつりだつてよ」「良いよそんなのくれてやれ」それくらい競輪選手で強くなれば稼ぎます。八戸でも競輪選手をやったポルシェに乗ったりキャンピングカーを持っている人もいるし、アパートを建てたりして悠々自適の生活を送っている人もいます。山内君は千葉の方でアパートを何棟か建てています。

その後会社でも色々ありましたが母親が病気になりまして、母親は保育所をやっている、ちょうど私が28の時、死ぬとは思わなかったのですが私が28の時60歳で亡くなりました。12月28日に亡くなって葬式は年内にやらなければならないと言われて30日にバタ、バタしながらも葬式を出しました。その時も色々失敗をしましたが、その話をしていれば時間が無くなりますので、その後母親を引き継いで保育所をやりました。見様見真似で、何にもわからない、経験も何もない、ただ元気だけ、自転車部で学んだ体育会の元気だけ、やればできる！全然弱かった私でも試合で優勝する事も出来、練習すれば何とかなると、今でもそう思っています。やればなんとかなるさと、生活信条としてそう思って保育所をやったのですが、何せ最初からそういうのをやりたいわけではなかったのだから、保育所をやっているサウンドの仕事も始めました。

話が前後しますが是川団地が造成される時に幼稚園の話がありました。お前もクジを引けという事でクジを引いて当たりました。その間の話も色々ありますが長くなりますので、抽選に当たり幼稚園

も開園したのですが皆からはそんなの止めた方がいいと、ちょうどそのころ母親が死んでしまい認可になる前で、クジを引いた後に死んでしまったものから、母親の貯金通帳を見てもお金がありません。なんでないのかわからなかったのですが銀行へ、当時は秋田銀行が出来たばかりの時に、それまでは青銀と取引をされていて、クジを引いたら取引をする事に成っていましたが、結局は融資の稟議が下りない、まだ下りないと結局融資してもらえず、秋田銀行へ交渉に行き、体育会のハツタリで何とか秋田銀行から融資いただき、何とか幼稚園が開園出来ました。それでもやっぱり自分の好きなものがあるじゃないですか、それでサウンドクリエイトを始めました。

この仕事はテレビのコマーシャルとかイベント、当社の名前はあまり出ませんが結構やっています。〇〇ホームとか〇〇〇〇とか何社かありますが、それは代理店さんがいてうち直接ではありませんが、代理店の営業の方が取ってきたのを作ると言うのが多いです。イベントの場合は大きなものとして八食のサマーライブとか、ディナーショーとか地元の歌手の音響、照明、南郷のジャズの音響やタレントを呼んだりするのもやっています。舞台関係の運営や式典の運営、先日、三沢の会社もやらせていただきビデオで紹介したり音響やタレントの手配などもしています。

幼稚園のパフレットもありますが、幼稚園の特色として0歳から、認定こども園というシステムが出来てうちの場合0歳から入園できます。紛らわしいですが認定こども園と言うのは幼稚園と保育園が

混ざったようなもので、色々な種類があります。いまだに幼稚園でやっているところもあります。千葉幼稚園さんは幼稚園だけ、3歳以上の子供だけ、うちは幼稚園と保育園の認可を取って0歳から小学校へ入るまでとなっています。特色は音感教育で音楽の教育を通じて子供たちのやる気を育てる、使命感と言いますか、私も感激する事がありました。うちの子は風を引いたから休めと言っても休まない、「どうして休まないの」「僕が休むと、僕のパートが出来ないと皆が演奏できないから」と言うと、それを聞いてホロっときて、商売はお金だけじゃないんだなと思いました。そのほかにも色々あります。園は日曜日もやっていますので日曜日にお仕事のある方もお預けが出来ます、只、場所がちょっと遠くて是川です。

ピンクのチラシがあります。楽しい家とか孔明荘と言うのがあります。孔明荘と言うのは入所で100名定員です。通所も100人と定員の規模はわりと大きいですが実際は今80人位ずつしか入っていないし、コロナの関係もあって楽しい家の方は60人位、登録は300人いますけれど毎日には来ないので日々それくらいの人数です。ただ、空いてはいますけれど誰でも彼でも入れるかというところ、介護度の問題とか、老人保健施設ですのでそういうのに向く方が入れるという事に成ります。ご自分はまだでしょうが何方かであれば、うちに入らなくてもいいですから、専門の相談員が居ますので色々お話は出来ますし、その方でしたらこういう施設が良いですよとご紹介できますので、遠慮なくお話をさせていただければと思います。